

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2256780012
法人名	医療法人社団藤友五幸会
事業所名	グループホーム 和らぎの家
所在地 (電話番号)	磐田市大久保508-24 (電話) 0538-38-6610

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年5月27日

【情報提供票より】(20年 5月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	14.7 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(130,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
	1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(5 月 6 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	3 名	要介護2	9 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤内科
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは磐田原台地に位置し、周辺はお茶畑の緑が鮮やかで、地続きに市立総合病院や、同法人の老人保健施設等が立ち並び環境的に恵まれている。ホーム長をはじめ職員全員がホームをより良くしたい思いが旺盛で、以前から全員で自己評価を行い、問題点を抽出し改善につなげている。運営推進会議は隔月に開催し、地域との交流の下に意見を出し合い生活の広がりができてきている。利用者一人ひとりの希望、要望に応える場面も多く、多機能性を活かした柔軟な支援を実践している。ホームだよりは毎月発行され、個別覧は利用者の日常の様子や家族との情報交換のツールとして活用している。防災訓練は同法人、消防署、地域を交え実施している。個室の表札の上には、避難完了が分かるような札を付ける等、訓練の成果と職員の工夫が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 食事、水分摂取量の把握については日々の生活日誌の様式を変え、簡単に記録でき、見やすいものに改善している。緊急時の対応は、年間の勉強会に取り入れ実施している。市との連携、地域への還元については、運営推進会議を隔月行うことで徐々に関係、連携が作られてきている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員一人ひとりが、自己評価を自己のケア等を反省する良い機会として、新たな気持ちで取り組んでいる。個々に出された意見をユニット毎に集約することで自分以外の見方や考え方を知ることができ、自己を振り返るチャンスと捉えている。それぞれの意見の中から改善項目を見出し、職員会議等で話し合う仕組みができています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 隔月に開催し、情報交換することで地域を知る場となっている。事業所は、直接サービス向上までには至っていないと考えているが、着実に成果は上がってきていると判断する。今後は、メンバーや内容の見直しを行い、率直な意見が気軽に出来る雰囲気作りを工夫すると共に、双方向の会議となることを期待する。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月ホームだよりを発行し、ホームからのお知らせと共に、個々にホームでの近況、健康状態、預かり金の使途等を報告している。イベント参加や面会時には、積極的に家族と会話し、情報交換することで家族に安心感を与えるよう努めている。今回の家族アンケートの意見に対しても積極的に取り入れる姿勢が伺える。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域向けホームだよりを月1回、地域に回覧している。回覧板を回すのも利用者と一緒に、会話が生まれるきっかけを作っている。公民館祭りにはフリーマーケットを出店し、利用者と一緒に参加している。法人グループで行う祭りやイベントには、近隣に参加を呼びかけている。また地域の祭りや音楽会、学校の運動会に招待があり参加している。運営推進会議等で話し合い、益々連携を深めていかれるよう期待する。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やわらぐ心を求め手をとりあい、よりそうらし」をホームの理念としている。地域の方々とも一緒にという意味が含まれており、地域密着を意識した理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目にふれやすい場所に明示し、職員全員が共有すると共に、日々のカンファレンスや定例会において理念に基づいたケアとなっているかを検証している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に対し、ホームの情報を回覧板として月1回発信している。回覧板により地域の動きが分かり、各種行事等に参加している。利用者の手で回覧板を回すことで隣近所との会話のきっかけ作りにもなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が評価の意義を理解し、全員がほぼ全項目について書き上げ、管理者がまとめたものを職員に提示し意見を求めている。他人の意見や考え方を知ることができ、自己研鑽のツールとしても活用している。	○	職員から出された意見の中から改善項目を抽出し、職員会議等で検討し改善に結びつけている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。ホームとしては、実際にサービス向上にはつながっていないと考えているようだが、目に見えない効果が着実に表れていると言える。地域や行政の意見を聞くことによって、改善に向けた諸施策が実現され、また安心して日々の活動ができることにつながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を受け入れ、相談内容等があれば記録に残している。地域ケア会議や講演会等にも参加し情報を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回ホームだよりを発行し、行事等のお知らせや個人毎に近況、金銭管理の明細等を報告している。家族との面会時には積極的に話し合いの機会を作り、情報の共有化を図っている。	○	ホームとの連絡の手段として、時間帯を気にしないで済むメールの活用を希望している家族がいるので、今後検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用開始時、苦情相談窓口について説明している。訪問時はできるかぎり会話し、意見や要望を気軽に出せるように配慮している。意見箱の設置、運営推進会議への家族代表の参加、毎年の家族会など折に触れ、意見を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階と2階、それぞれユニット毎の職員は原則的に固定化し、馴染みの職員と利用者の関係が保たれている。異動や離職があった場合は、ホームだよりにもその都度掲載し変更のあった旨を知らせている。	○	事務室入口に当日勤務する職員の顔と氏名の写真が張り出されている。利用者や家族にとって名前を呼べる安心感があり、職員は責任を持って勤務している状況が見て取れる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者と管理者は職員の育成に対し熱意を持ち、段階に応じた必要な研修を受講できるようにしている。グループホーム内の研修は勉強会という位置付けで、職員の話合いのもとに年間計画を立て実行している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア連絡会やケアマネ連絡会に出席し交流する機会がある。また他グループホームとの相互交流は祭りの招待や見学会等、一部の同業者と実施しているがネットワークづくりまでには至っていない。	○	他の同業者と交流したいとの要望が職員の声として出ており、実現に向け検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込があった時は、全職員で検討している。自宅を訪問したり見学や遊びに来てもらい、お茶や昼食を一緒に食べて顔なじみになり、本人の了承を得てからの入居となる。また近隣のケアハウスからの紹介や、同一法人の老健からの利用者も多く、直ぐに馴染みの関係を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日一緒に過ごしながらか、家事やイベントの準備を一緒にしたり話したりする中で、気持ちを通わせながら教えてもらったり支えあったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が思いや希望を言いやすいように、利用者のそばで屈み視線を合わせ話を聴き、意向の把握に努めている。面会時に家族の話を聞いたり、アセスメントなどあらゆる機会を捉えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には担当制をとっているが、カンファレンスで意見を出し合い、日々の記録を見ながらそれぞれの利用者に向けたプランとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居間もない利用者は1か月でケアプランを見直している。通常は作成日、次回の評価予定日、評価実施日を記入し、6ヶ月で見直している。家族とは少なくとも年1回はひざを交えゆっくりと話し合いの時間を持っていて、了承印をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	別施設に入院している妻に会いに行く利用者につき添ったり、かかりつけ医への通院介助や、1人で自宅へ帰る利用者の支援など、個別に利用者の要望に応える支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者18名中11名が提携医院の医師の往診を受けている。それ以外の利用者は希望によりかかりつけ医への受診につき添い支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一度、終末期ケアの経験があるが、振り返るとその時期他の利用者への対応がどうしても疎かになっていたという反省から行われていない。現在は医療対応について利用者や家族に説明し了解を得ている。	○	経験をもとに、体制が整った折には対応の是非を検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月発行される「やわらぎだより」は家族宛と、個別名を排除されたものが作成され地域へ広報している。個人の記録は事務所内の目に付かないところに収納している。声掛けは丁寧に個人を大切に思う対応を行っている。	○	入口にある面会簿は個人名が他の方にも伝わるので、配慮されたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースでゆったりとした時間の流れの様子がみられる。散歩や買出しに同行したり、午睡する人、自宅に帰る人、それぞれが自分のペースで暮らしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員3名で、サイクルメニューを参考に利用者の好みや季節を考慮し献立を立てている。週3回の昼食は同一法人施設からの利用であるが、その他は利用者と共に手作りしたり、時には出前をとったり外食に出かけている。片付けは出来る方が無理のないように一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎夕方に入浴時間が設定されているが、介助の必要な利用者は2.3日おきに、自立の利用者は毎日でも入浴できる。洗髪拒否をする利用者は記録を付け、声掛けなどの対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントにより利用者の好みを把握し、一人ひとりの楽しみごとを見つけ支援している。自宅に帰りたい利用者には、迎えに行ったり連絡を取ったり、安全に配慮して支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出たり、庭の菜園や花の手入れをしたり、食事準備の買い物に同行したり、また同一法人の老人保健施設の生花クラブや陶芸教室に参加したり、バスに乗って日中自宅へ帰るなど、外出の支援もそれぞれに行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はされていないが、夕方の入浴・食事の準備時の手薄になる16:30に玄関を施錠している。面会時間が20時までなので、家族からの対応を求める声がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練が毎年2回行われ、昼間実施ではあるが、夜間想定も行われている。同一法人の老健施設の職員や、隣接薬局や隣家の住民の参加も得ている。居室の入口に「避難確認カード」が張られ、ホーム職員以外の方の協力時に即対応できるよう工夫している。消防署の指導で消火器の使い方も訓練している。	○	運営推進会議を利用し、幅広い地域の協力が得られるような体制作りを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前回の評価で指摘された事項であり、記録方法の工夫をして、日誌を見易く個別記録している。全職員が利用者の状態を把握できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとしたソファで、職員の見守りの中自分の居場所として過ごしている。窓からは人や車の往来も見え、生活感のある場所となっている。浴室は2つの浴槽があり、利用者同士が一緒に入ることもでき、利用しやすい環境の配慮をしている。離れた場所にある和室は家族の面会時など落ち着ける場所となっている。	○	和室の利用方法について模索中であるが、利用者・家族・職員の意見を取り入れ活用方法を考えられたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと収納はホーム備え付けのもので、それ以外は本人持ち込みの物である。今まで使い慣れた箆箆や神棚、家族の写真が飾られそれぞれの個性に合わせた居心地のよい居室となっている。		